



営農NEWS



コマツナ栽培における病害虫の防除対策

茨城県のコマツナ栽培は、秋～春には主にハウスやトンネルを利用して、春～夏にかけては主に露地栽培で、播種と収穫を複数回繰り返す栽培体系が中心となっています。

コマツナ栽培では作期や圃場条件などによって、病害虫の被害発生が大きく異なりますので、個々の圃場における作型ごとの病害虫被害の発生状況をよく整理して、それに対応する防除体系を組み立てることがたいへん重要になります。

コマツナでは周年で長期に連作栽培すると、土壌病害の苗立枯病や萎黄病、根こぶ病、軟腐病などが発生しやすくなります。また、茎葉病害では白さび病や炭疽病、白斑病、べと病、黒腐病などが、害虫ではキスジノミハムシ、アブラムシ類、アザミウマ類、ハモグリバエ類、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ類、ハイマダラノメイガなどが時期により発生します。さらに、アブラムシ類が媒介するモザイク病も発生して、減収となることがあります。

作期や作型ごとに、適期で的確な防除体系を組み立てることで、高品質なコマツナの安定生産が可能となります。

＜病害虫発生の特徴＞

冬季の病害虫発生は少ないですが、早春または晩秋の低温多湿のときに白さび病やべと病が、梅雨期や秋の長雨期には炭疽病、黒腐病、秋季には白斑病など茎葉病害が発生しやすくなります。また、土壌病害として夏季の高温多湿のときには萎黄病や軟腐病、秋には根こぶ病などの発生がみられます。モザイク病が多発することはまれですが、アブラムシ類がウイルスを伝染するため、その対策が重要になります。

害虫では、キスジノミハムシやアザミウマ類が夏季を中心に長期に被害が発生し、アブラムシ類やハモグリバエ類は春と秋に発生しやすい傾向です。チョウ目害虫のアオムシ、コナガ、ヨトウムシ類も春と秋を中心に発生しますが、ハイマダラノメイガは夏季～初秋に被害が集中して多くなり、これら害虫の防除が手遅れになると、大きな減収を招きます。

＜防除対策のポイント＞

コマツナには登録薬剤が少ないため、薬剤防除のみに頼らない総合防除が必要になります。多湿条件が病害の発生を助長するため、圃場の排水不良を改善（明渠の設置等）し、高畦栽培を行い、過度の灌水を避けて適度な湿度条件に保つようハウスやトンネル換気等の適正管理に努めてください。被害株は早めに除去し、発生場所を中心に薬剤防除を行います。なお、連作や土壌病害が発生したハウスでは除塩を兼ねて、夏季の還元型太陽熱土壌消毒などを実施しましょう。

害虫やモザイク病の対策には、ハウスやトンネルの開口部に防虫ネットを展張して、害虫の侵入を防ぐことが最も大切です。また、害虫の飛来源、ウイルスの保毒源となる圃場周辺雑草の除草を徹底するなど、圃場衛生に努めましょう。さらに、登録のある各種の粒剤を播種前に処理し、被害が発生したら発生株の早期除去や薬剤防除を実施しましょう。

表 1 コマツナ各種病害に対する主な防除薬剤（平成 28 年 9 月 15 日現在）

対 象 病 害				薬 剤 名	使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数
白さび病	べと病	黒腐病	軟腐病			
○				ユニフォーム粒剤	9kg/10a 全面土壌混和	播種時/1 回
○				ランマンフロアブル	2,000 倍	収穫 3 日前まで/3 回以内
○				アミスター20 フロアブル	2,000 倍	収穫 7 日前まで/2 回以内
○			○	ジーファイン水和剤	1,000 倍	収穫前日まで/ -
	○	○	○	Z ボルドー	500 倍	- / -

表 2 コマツナ各種害虫に対する主な防除薬剤（平成 28 年 9 月 15 日現在）

対 象 害 虫					薬 剤 名	使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数
アブラムシ類	アオムシ	コナガ	ハモグリバエ類	キスジノミハムシ			
				○	フォース粒剤	4kg/10a 全面土壌混和	播種時/1 回
○				○	スタークル粒剤	6kg/10a 播溝土壌混和	播種時/1 回
○				○	モスピラン顆粒水溶剤	4,000 倍	収穫 7 日前まで/1 回
○					ウララ D F	4,000 倍	収穫前日まで/2 回以内
	○	○			コテツフロアブル	2,000 倍	収穫 3 日前まで/1 回
		○	○	○	アニキ乳剤	1,000～2,000 倍	収穫前日まで/3 回以内
		○			プレオフロアブル	1,000 倍	収穫前日まで/2 回以内
		○		○	アクセルフロアブル	1,000 倍	収穫前日まで/3 回以内
		○			ディアナ S C	2,500～5,000 倍	収穫前日まで/2 回以内
	○	○	○マメハモグリバエ		カスケード乳剤	2,000 倍	収穫 7 日前まで/2 回以内
	○	○			エスマルク D F	1,000～2,000 倍	収穫前日（発生初期）まで/ -

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※ J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040